

岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集 投稿規程

1. 総則

- 1) 本誌は岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集 (Bulletin of the Morioka Junior College, Iwate Prefectural University) (以下「研究論集」という.) と称する。
- 2) 研究論集は、本学部教員の研究発表および研究業績等を公表することを目的とし、年1回刊行する。

2. 投稿者の資格

研究論集に投稿できる者(投稿者)は本学部専任教員、本学部専任教員と共同で研究を行っている者(共同研究者)および研究紀要委員会が認めた者とする。

3. 論文の種類と提出

研究論集に投稿できる論文種類およびその内容は以下のとおりとし、未公開のものに限る。使用する言語は日本語および英語とする(①総合論文および②学術論文については査読を行い、③研究報告、④総説、⑤解説、⑥資料、⑦書評、⑧調査報告は査読を行わない)。

①総合論文

特集に関連する著者の研究、意見を組み入れた総説などで、研究紀要委員会からの執筆依頼に基づいて作成されるものを基本とする。なお、委員会からの依頼によらず自発的に投稿を希望する場合、投稿希望者は、論文の主旨や概要について予め研究紀要委員会に相談するものとする。

提出書類および処理の流れ: ①新規原稿(コピー3部)および別に定める岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集投稿受付シート(以下、受付シートと略記)提出(投稿者→研究紀要委員会)。②査読者による査読、③査読終了後、査読原稿および査読意見書(2部)を返却(研究紀要委員会→投稿者)。④査読意見書に対する回答書および改訂原稿(コピー3部)提出(投稿者→研究紀要委員会)。⑤改訂原稿の採否決定(研究紀要委員会)。⑥最終原稿(1部)および原稿電子データファイルの入ったフロッピーディスク(以下、FDと略記)または記録用コンパクトディスク(以下、CD-Rと略記)を提出(採用決定者→研究紀要委員会)。

②学術論文

独創的研究に基づいた学術的に価値のある完成度の高い論文。

提出書類および処理の流れ: ①新規原稿(コピー3部)および受付シート提出(投稿者→研究紀要委員会)。②査読者による査読、③査読終了後、査読原稿および査読意見書(2部)を返却(研究紀要委員会→投稿者)。④査読意見書に対する回答書および改訂原稿(コピー3部)提出(投稿者→研究紀要委員会)。⑤改訂原稿の採否決定(研究紀要委員会)。⑥最終原稿(1部)および原稿電子ファイルの入ったFDまたはCD-Rの提出(採用決定者→研究紀要委員会)。

③研究報告

独創的研究で得られた新規な考え方や新事実、また価値あるデータなどを含む論文。

提出書類: 新規原稿(1部)、原稿電子ファイルの入ったFDまたはCD-R、受付シート

④総説

本学専任教員の各分野の研究に関連して、その方面の進歩の状況、現状、将来への展望などをまとめたもの。

提出書類: 新規原稿(1部)、原稿電子ファイルの入ったFDまたはCD-R、受付シート

⑤解説

本学および地域社会にとって有益な知見を解説したもの。

提出書類: 新規原稿(1部)、原稿電子ファイルの入ったFDまたはCD-R、受付シート

⑥資料

本学および地域社会にとって有益な調査データ等の知見を紹介したもの。

提出書類: 新規原稿(1部)、原稿電子ファイルの入ったFDまたはCD-R、受付シート

⑦書評

本学および地域社会、または本学専任教員の各分野の研究に関連して有益な書籍を読み、その内容の概説と、内容に対する評者の評価を述べたもの。

提出書類: 新規原稿(1部)、原稿電子ファイルの入ったFDまたはCD-R、受付シート

⑧調査報告

海外の先進事例や調査内容などを報告するもの。

提出書類：新規原稿（1部）、原稿電子ファイルの入ったFDまたはCD-R、受付シート

4. 論文の審査（総合論文・学術論文のみ）

- 1) 研究紀要委員会は、投稿された論文を、選定した査読者により審査させるものとする。
- 2) 研究紀要委員会は、本学部教員の中から2名の査読者を選定し、審査を依頼する。ただし適任者がいない場合は外部に査読を依頼する。
- 3) 執筆者は査読意見に従って修正した原稿を再提出する。ただし、どうしても納得しがたい査読意見については、研究紀要委員会委員長あてに文書でその理由を明示する。研究紀要委員会で協議し、場合により第3の査読者に審査を依頼する。

5. 投稿の方法

投稿原稿の提出に当たっては、投稿規程に従い、「岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集受付シート」を添付し、定められた期日までに完成版下原稿を研究紀要委員会に提出する。

6. 原稿投稿の締め切り

投稿の締め切りは、各年の募集要項に記載する。

7. 印刷の費用

特別な印刷の費用は、投稿者が負担する。

8. 別刷

別刷の費用は、投稿者が負担する。

9. 紀要の編集

研究紀要委員会は、提出された原稿の掲載の可否、掲載順序等を決定する。

総合論文、学術論文は、査読者の審査結果の報告を受け、研究紀要委員会が掲載の可否を決定する。

編集の都合により執筆者に加除補筆を依頼することがある。

10. 校正

執筆者による校正は初校のみとする。校正の段階での内容の変更は認めない。初校は投稿者に連絡した日から定められた期日までに校了し、研究紀要委員会に提出するものとする。

11. 著作権の扱い

- 1) 研究論集に掲載する論文等の著作権（複製権および公衆送信権）は、編集委員会が論文等の最終原稿を受理した時点から岩手県立大学盛岡短期大学部に帰属するものとする。
- 2) 前項の規定に関わらず、著作者本人が自らの論文等を利用することは自由である。

12. その他

本誌の発行に関して生ずる必要事項は、その都度編集委員会において決定する。

13. 研究紀要委員会の構成

生活科学科生活科学専攻、生活科学科食物栄養学専攻および国際文化学科から各1名の委員を選出する。委員長・副委員長は委員の互選による。

附則

この規程は、平成10年7月22日から施行する。

附則

この規程は、平成14年6月19日から施行する。

附則

- 1) この規程は、平成15年11月19日から施行する。

- 2) この規程の施行日前に研究論集に掲載された論文等の著作権（複製権および公衆送信権）は、著作権が当該個別の著作物ごとに著作権（複製権および公衆送信権）を岩手県立大学盛岡短期大学部へ譲渡することを承諾した時点から本学に帰属するものとする。

附則

この規程は平成17年8月19日から施行する。